

令和3年度第1回森町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進委員会 議事録

日 時 令和3年10月15日(金) 13:30～14:30

場 所 森町公民館 2階講堂

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

川村企画振興課長より挨拶

2. 委員長挨拶

遠藤委員長より挨拶

3. 議 事

① 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業調書について

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業調書を用いて、事務局から新事業の概要と既存事業の実績及び今後の方向性について説明。

～委員意見～

遠藤委員長

まず最初に私から話をしたい。昨年、今年とコロナ禍だが意外にやれているのではないかと。ほとんど動けない状態かと思っていたが、意外と活動できていて良かった。今年度追加された取組みについて、教育大学、武蔵野美術大学の学生が森町に来て、色々な体験をしてもらえた。これが人口増加に少しでも繋がればと思う。もともとまち・ひと・しごと創生総合戦略では少子高齢化の中でどうやって持続可能なまちづくりができるのかが最大のテーマなので、若い人が移住するというのは実現してほしい。先ほど武蔵野美術大学の発表の動画を見せてもらったが、森町を気に入っていただいているみたいで、これは森町の方々が優しく接してくれたからではないかと思う。今後も学生たちが来たときは優しく迎えてほしい。それがこちらに興味を持つきっかけとなってほしい。

また、交流人口について、コロナ禍のため難しいと思っていたが今年度も活動できていて良かった。交流人口拡大は森町の知名度を上げる、森町のものを買ってもらうことに繋げるのが目的にあると思うので、そういうことに繋がるような活動してもらえればと思う。

子育てや介護は森町で安心して暮らせるようにするというのが目的だと思うので、挙がってきた事業だけでなく、その他の改善点についても考えてもらいたい。

佐藤委員

武蔵野美術大学の学生が、数日前の新聞の記事で森町の課題について、子育て支援が足りない、働く場所が無い、というのが載っていたと思う。子育て支援はどういう点が足りない

という問題点は投げかけてもらったのか。また、働く場所が無いとは、学生の視点からどういう場所があれば来てくれるという提案はあったのか。

事務局

学生は4週間森町に滞在していて、企画振興課職員の対応や農林課の協力の中で色々な場所を見てもらった。その中で、2週間目くらいから学生が主体的に行きたい場所の提案や取材を行い、それらを吸い上げ最後の発表となっている。その中でどういった面で子育て支援が足りないとなったのかというところはあるが、周知が足りていないというのはあると思う。

働く場所について、学生は10年後何があれば森町で生活できるというような課題を設定しており、働く場所が無いなら自分で作るということを発表していた。自分がやりたいことを仕事にして森町に住むとのことだった。

佐藤委員

今年来た学生は今年限りか。来年度も来るのか。

事務局

今回は大学3年生が来たが、来年は本事業では来れない。余談だが、別の活動や繋がりを経て森町に来たいと言っていた。

遠藤委員長

道内の各自治体で道外の大学生が来るというのはあまり聞かないので、よく繋がりを作ったなと感心した。特に今回は美術大学ということで、今までの大学とは違う目線で町を見てもらえたと思う。また、先ほど新しい仕事を作るという話があったが、それを森町としてどうサポートできるのかが思うところである。会社を作る以上経理や営業もやらなければいけないので卒業してすぐに自分で働くのは難しいと思う。それをどう町で支援できるのか、考えてもらいたいと思う。

伊藤委員

コロナが収まりつつある中、次のステップはコロナが終わってどうするかと。対面対面とあるがデジタルやネットを使った方が効率的に人を集められるということもあると思う。例えばインターンシップで学生を受け入れて、学生の提案を町で受取り改善する。これはいいが、その学生が何名森町に来るかは低い割合となると思う。なので母数を増やして来てもらえる方を増やすとか、森町で就業したい方をネットを使いながら効率的に集めれば経費を抑えながらできるのではないか。あと、地域の企業や事業者への支援が足りないので、そういうところに目を向けたことをやってもらいたい。子育ての支援についても、この前統計を見て、今10歳の子供が100人くらいいて、0歳は50人を切っている。これから10年経ったらどうなるのか、成果を出していかないと森町はどうなるのかというところがあるので、スピード感を持って対処しなければいけないと感じた。

事務局

コロナで出来なかったものは今後オンライン等を活用して展開できないかと考えている。企画振興課でいうと東京などの都心部で対面でのPRを行っていたが、これからはオンラインでの対応も計画している。学生のインターンシップについても人数を増やす取組みを考えていきたい。今回の学生を1回目として、今後の情報発信の原点になるよう情報共有して次の学生を招き入れていきたい。その他についても貴重な意見として持ち帰らせていただく。

丹崎委員

子育て支援の祝金の課題や方向性について、ここに記載することで地方創生の交付金に該当となるのか。内容を見るとまだ足りないと感じ、他の施策も付随していかないと対処できないと思う。また、公共交通について、10月から函館バスの駅前停留所は土日祝が休みとなり、休日に利用していた人が、利用しづらいものとなりサービスが低下したのではないかと思う。これは他の公共交通の話し合いの場でも課題として出されていたのか。そして町との意思疎通が図れていたのかお聞きしたいのと、一部増便や減便で利用しづらくなったことについて、課題の共有はされていたのか。

事務局

先に子育てについて答えていく。調書に「森町入学・卒業祝金支給事業」を載せることで、地域再生計画に反映ができる。それにより森町の子育ての取組みを対外的に周知し、そこで企業版ふるさと納税の応募をかけ、支援いただく。そしてこの事業に充当するという流れができるので、そちらに向け前進したと思う。

遠藤委員長

丹崎委員は他の施策もと言っていたが、何かイメージするものはないか。言っていたいた方が伝わりやすいと思う。

丹崎委員

遊ぶ場所が欲しい。昨日森高校の学生と話す機会があり、管理されたきれいな公園を整備してほしいという意見があった。

遠藤委員長

全国的にも公園が少なくなっているとのことなので、担当課に話を聞いてほしい。次に公共交通についてお願いします。

事務局

その前に先ほどの子育ての話について補足する。3500万円という大きな額が、給付事業なので継続するものと思っている。財源については現段階ではふるさと応援寄付金を充てており、現段階では交付金の活用予定は無い。しかし、まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業に載るということは、企業版ふるさと応援寄付金を充てれるということなので、今後ともPRしながら応援いただけるよう進めていきたい。

函館バスについてだが、近年公共交通が縮小されている。函館バスとは日頃より情報交換をしているが、どこもそうだがコロナの関係で昨年来公共交通利用が少なくなっており、その影響が非常に大きい。減便についても高齢化による人員不足が原因と聞かされている。乗務員だけでなく、乗務員を管理する運行管理者、国家資格を要するものでそこが非常に不足している。ご存知のとおり函館バスは渡島・檜山を網羅しているため、森だけでなく全体的に考えると森地区では縮小せざるを得ないということで、利用者減少の件もあり減便となっている。ただし町も要望を出したり、どうすれば運行できるか等情報交換をしているので、お互い工夫しながら話をしていければと思う。

河野委員

いつも思うのだが、バス停に屋根が無い。荷物を持ち雨や雪の中待っているのはかわいそうだし、町で何とかしないとますます利用が少なくなると思う。それと、ツルハの辺りにバス停が無いので、つけば買い物した人が便利ではないか。

事務局

バス待合所について、全ての停留所にあるわけではないが、町内会に作ってほしいと依頼されるケースがほとんどで、要望のあった町内会と話し合いながら予算を組んでやっていく仕組みである。町で作ってきたのが9、10箇所あり、色々な待合所がある中で全てはできないが、これから町内会と話し合い2次の調査ができればと思う。森川町のツルハ周辺について、どこに停留所があればいいか等は日頃から函館バスに話しており、砂原地区のスーパーとかいの辺りにもない。今後も精査しながら引き続き要望を出していきたい。

岡委員

町外からの雇用受入について、ある市町村では登録された事業体に就職すれば、支援金等がもらえるみたいだが、森町にはそういうのは無いのか。あと、低コスト公共施設の事業の中で森町針葉樹材質試験が行われたと思うが、その結果がどうなったのか知りたい。

事務局

U I J ターン新規就業支援事業がそれに合致すると思う。町内で2件事業所が登録されており、東京圏に居住の方を対象に支援は受けられるが、現状のところ実績としては挙がっていない。また、他の支援は町として行っていない。針葉樹材質試験については、まだ結果等は手元に無いので確認でき次第お届けしたい。

宮崎委員

佐藤委員からもお話しがあったが、子育て支援について、医療費の免除等充実していると思う。一方、先ほど話に合った武蔵野美術大学の学生の子育て支援に課題があるという意見について、こちらの職場でも子どもが熱を出した時等に頼れる場所が無くて辞めた人たちもいた。もし、預かる人がいて、そこに森町の支援があればいいのかなと思った。あと、最

近テレワークが進んでおり、本州の上場企業の方が故郷に戻り、家を建てるというのが増えているため、そういった支援は必要だと思う。もう一つ、教育についても何か施策があれば移住者も来るのではと思う。

事務局

子育てについて、町内にも保育施設が何箇所かあるが、国全体では所得制限等が設けられている。森町ではそれを撤廃し、上限はあるものの基本的には無料としており、町の施設だけでなく、個人の施設に対しても町から支援をして無料としている。そういった施策は充実していると思うが、施設が足りているか、ニーズに合っているかは考えていく必要がある。貴重な意見として持ち帰らせていただく。

伊藤委員

一つ、数年前に本委員会が始まり渡島信金として参加した際に宮崎委員のお話にあった病児保育について、七飯町で小児科と併設して預かる施設があるので、森町にも病院が多いのでそこをコラボして何かできればと提案していたのを思い出した。

事務局

こちらの提案についても貴重な意見として持ち帰らせていただきたい。

② 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

新旧対照表及び総合戦略改定案について説明。

～委員意見～

遠藤委員長

後木委員何かご感想等あればお願いしたい。

後木委員

子育てについて、祝金事業の人数に目を通したが、年10人ずつくらい減っている。その上の子育て応援プロジェクトも考えると、非常に苦しい状況だと思う。私も福島町で子育てもしてきたが、話に出ていた熱を出した時の対応と、保育所の終わる時間が早いことに困った。その辺も柔軟に考えてもらえればと思う。

③今後のスケジュールについて

令和3年度第2回の開催について、開催時期は令和4年3月を予定。

4. その他

5. 閉会